

## ●基本装備●

ある程度の防寒性能は確保しつつ、活動中は暑くならない装備として基本中の基本は、アンダーウェアだ。アンダーは肌に直接触れる物だけに、寒暖の影響を最も受けやすい。人間どうしたって少し激しく動けば多少なりと汗をかくが、その汗をウェアに残したままにしておくとも身体を冷やすことになる。それを防ぐためにアンダーウェアは汗を残さない化繊系のもので、できれば腰をしっかり覆えるよう裾丈が長めのものが良い。また、意外とおそろかにされがちなボトム（下半身）のアンダーだが、男性でも膝丈、膝下丈くらいの長さのアンダーウェアを履くと驚くほど冷えが軽減されるので是非お試しあれ。

防寒と長時間の歩行を考えれば靴下もトレッキング用などの厚手のしっかりしたものを強く推奨したい。アンダーウェアに一通りきちんとした物を揃えれば上着を1枚減らしたり薄手のものに変えることができ、その分アクティビティ向上を図れる夏冬を問わず探求すべきポイントだ。

ただし、化繊のアンダーの上に同様の化繊のシャツ類を重ねると摩擦によって激しく静電気が発生するので、静電気防止加工されたアイテムを選びか、間に1枚、綿やシルク等の薄手のものを挟むこと。



**用意** 厚手の靴下（化繊やウールのもの）、化繊のアンダーウェア、スパッツやタイツ、カイロ（貼るタイプ）

## ●調整装備●

冬コミとはいえ、混雑したホール内を重いバッグを担いで東奔西走すれば結構暑く感じることもあり、開場後は分厚い防寒着などジャマになるということも珍しくない（実際、足首近くまであるダウンのロングコート姿でタオルで汗をぬぐいながら行動している参加者もよく見かけられる）。

会場に到着する時間が開場時間から1時間程度以前なら行列に待機する時間も長くて1～2時間というところなので、大仰な防寒着よりは軽量で防風性能の高いシェルをメインにマフラーや手袋、カイロ等で体温を保ち、入場後の機動力を重視する方が有効な戦略かもしれない。もちろん、当日の気温が非常に低いようなら短時間であってもきちんと厚手の防寒着を着込んで行くか、会場内で脱げるよう重ね着をしていくのが望ましい。



**用意** 中厚手の上着または重ね着できる防寒着＋シェルジャケット、マフラー、手袋、マスク、ストールなどの薄手で畳める防寒具、カイロ

当然ながら、概ね時間が早い程、そして当然ながら屋外程寒いので、その時間帯、場所に赴く参加者は防寒対策をしっかりする必要がある。逆に、開場以降の時間帯に会場するのなら、入場後の会場内での機動力を重視した比較的簡易な防寒装備の方が有効だろう。

一度会場に向かってしまえば服も装備も簡単には変更できない。しかし、何でもかんでも持って行こうとすれば大荷物になりそれだけで体力を無駄に消耗してしまう。夏と異なり、不要な防寒具はそのまま荷物の増加に繋がるために、自分にとっての必要十分なラインを見極めることが大切になってくるのだ。

個々の機能を吟味し、なるべく組み合わせることで効果を高める工夫をして、持ち物を極力圧縮することを心がけよう。

## ●防寒にベストな選択！

かさばる防寒着は持ちたくない、でも寒いのは嫌だ、というアナタにオススメのウェアが、ダウンや化学繊維の薄手の防寒ベストだ。これを上着の下に着込んでおき、入場して暑くなってきたら脱いでバッグにしまおう。袖がない分たんでもかさばらず、中間層なのであまり分厚いものでなくても十分暖かい。その上、内側に貼り付けタイプのカイロを仕込めば腰や背中からの冷えも一層効果的に防止できるというナイスなアイテムだ。

中綿入のものは中綿の空気を抜きながら丸めればコンパクトに収納できるので、収納用のスタッフバック（巾着袋）を用意しておくといい。

